

令和8年9月18日

保護者の皆様へ

藤井寺市立第三中学校
校長 寺田 剛

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

保護者の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また平素は、本校の学校教育活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年4月23日(木)に3年生で実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果概要についてお知らせします。

1. 昨年度の取組み

令和7年度は、「確かな学びをはぐむ学校づくり推進」として、加配教員を学力向上委員会のリーダーに配置した組織を設け、『学び合い 生徒の感情に働きかける授業実践 ～非認知能力を軸に～』を目標として、「生徒につけたい力」として、

- ①「GRIT 粘り強く考え取り組む態度」「コミュニケーション 他者とながら」「向上心 自分を高める」
- ②「アウトプットし、学び合う力」
- ③「家庭学習の定着」

の3つを挙げ、少人数でのグループワークや話し合い活動を取り入れたり、スモールステップで取り組める課題を提示する、相手意識・場面意識を持たせた体験的な活動を行う等の授業改善に取り組みました。また、家庭学習の定着のために、GoodNote（自主学習ノート）などの取組みを行いました。

2. 教科に関すること

<全体について>

- 平均正答率は、国語・数学・英語とも国・府の平均正答率を下回っています。しかし、国語・数学に関しては、昨年度と比較しますと、全国・府に近づいています。
- 情報の扱い方やデータ活用に関して、肯定的な回答の割合が高い傾向にありました。
- 基礎的な内容の定着および記述式に課題があります。
- 最後までやり抜こうとする姿勢に課題が見られます。

	解答時間が十分だったと 答えた生徒の割合 (A)	(A) のうち、文章で書く問題に対して、解答 しなかったり途中であきらめたりした生徒の割合
国語	85.1%	31.5%
数学	92.7%	48.1%

<各教科について>

	全国学力・学習状況調査から見える成果 (○) と課題 (●)
国語	○選択式の問題に関して無回答率はほぼ0%であった。 ●短答式・記述式の問題に関しては無回答率が全国・府と比べて高い。 ○「国語の勉強は好き」「授業はよくわかりますか」の設問に対する肯定的な回答は、全国・府ともに上回っている。 ●「思考・判断・表現」の観点に関して記述して回答する設問に対する正答率は、全国・府よりも下回っており、また、無回答率も高い。

数学	○「起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求める」設問の正答率が、全国・府よりも上回っている。 ●記述式の問題に関して正答率が低く、また、無回答率が全国・府と比べて高い。 ○「数学の勉強は好き」の設問に対する肯定的な回答は、全国・府とも「授業はよくわかりますか」の設問に対する肯定的な回答は、国を上回っている。 ●「思考・判断・表現」の観点に関する設問に対する正答率は、全国・府よりも下回っており、また、無回答率も高い。
英語	○「日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるか」「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く」設問の正答率が、全国・府よりも上回っている。 ●「英語の勉強は好き」「授業はよくわかりますか」の設問に対する肯定的な回答は、全国・府ともに下回っている。 ●基本的な語彙や文法が定着していない生徒の割合が多い。

3. 生活面や学習状況に関すること（生徒質問紙から）【数値は%】

①家庭生活に関わる項目

質問事項	本校	昨年比	大阪府	全国
朝食を毎日食べていますか	86.4	+2.8	88.9	90.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.5	-3.0	79.7	80.5
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.2	-3.0	91.7	92.4
平日、3時間以上SNSや動画視聴をします	62.1	—	55.6	49.6

○規則正しい生活を送るうえで大切なことの 하나가朝食を食べることです。「朝食をほぼ毎日食べる」生徒は昨年度に比べると少し増加しました。ただ、引き続き本校の課題の一つであるとみることができます。

○同じくらいに寝起きする生徒の割合は少し下がっています。起床時間、就寝時間については、毎日同じくらいに起きて生活の軸を作り、毎日同じ頃に寝て睡眠時間を確保することが大事です。

○SNSや動画の視聴は、規則正しい生活を送るうえでも、大きな影響があります。スマートフォンが脳に及ぼす影響も大きいといわれています。入学式に保護者対象に、7月には1年生対象に研修会を行いました。また、市教育委員会から啓発動画が配信されています。それらも活用しながら、スマートフォンの活用ルールをご家庭でも話し合ってくださいようよろしくお願いします。

②家庭学習に関わる項目

質問事項	本校	昨年比	大阪府	全国
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたり1時間以上勉強する	57.2	+1.6	62.7	61.6
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、全く勉強しない	14.9	-2.6	10.1	6.9
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり1時間以上勉強する	37.8	-4.9	44.2	52.5
学校が休みの日に全く勉強しない	23.6	-10.3	19.7	13.4

○全体的には改善傾向ですが、休日に家庭学習する生徒の割合は減少しました。ただ、2極化は課題です。昨年度より取り組んでいる GoodNote（自主学習ノート）の活用を進めるとともに、放課後ゆめ教室を活用しやすいように工夫します。

③学校生活・自分に関わる項目

質問事項	本校	昨年比	大阪府	全国
自分にはよいところがあると思いますか	80.1	± 0	82.2	84.0
将来の夢や目標を持っていますか	67.7	+6.3	66.0	67.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.5	+1.2	94.0	95.1
学校に行くのは楽しいと思いますか	83.3	+1.4	83.4	85.4
友だち関係に満足していますか	88.8	-2.4	90.1	91.2
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか	91.3	-2.2	90.4	91.0

○「ポジティブ行動支援」の取組みとして「Good Job カード」を作成する時間を定期的に設けるとともに生徒に掲示し「見える化」することで、「自己有用感」を実感する機会となり、「自己肯定感」にもつながっていると考えられます。

○「将来の夢や目標」を持つ生徒の割合が増え、全国・府よりも上回っています。職業体験・進路指導を含めたキャリア教育を積み上げてきた成果だと考えられます。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒の割合は昨年度よりも増加しています。しかし、100%になるまではまだ少しあります。「特別の教科 道徳」の時間だけでなく、学校教育活動を通して人権意識を高めてまいります。

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか」の項目については、数値が下がったものの全国・府より上回っています。友達関係の割合は下がりましたが、「学校に行くのは楽しい」生徒の割合は増加しました。友人との関係づくりや仲間とやりきる行事等を行う中で、より学校に行くことが楽しくなるように取組みを進めてまいります。

④授業に関わる項目

質問事項	本校	昨年比	大阪府	全国
1, 2 年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	60.9	+6.5	67.0	65.5
1, 2 年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	72.0	-6.9	77.7	78.8
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	81.4	+11.2	84.5	87.0
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	76.4	+6.8	79.2	79.0
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると考えますか	76.4	+2.7	78.3	78.0
総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	73.9	+3.2	75.9	80.8
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	85.1	+4.4	88.5	91.3

○全国・府の平均と比較すると下回っていますが上記ほとんどの項目で昨年度より改善しています。教科授業だけでなく、学級活動や特別の教科道徳の持ち方において、考えを深めたり、意見交換したりを進めてきた結果が出ていると考えられます。

4. 最後に

本年度の研究テーマは“三中 Vision”を軸とした教育実践 ～非認知能力の育成 3 年目～として学力向上に取り組んでいます。“三中 Vision”行動指標を Level 1 ～ 3 のステップを設定し、自分ほどの Level に到達しているのかをわかりやすいスモールステップを設けることにより、自らを客観的に捉えやすいように工夫して取り組んでいます。

ただ、三中生の課題として、「粘り強く考え、解を見出す問題への苦手意識」があります。粘り強く考える必要のある課題（＝GRIT を基盤として）を日々の教育実践に意識的に導入していくことで、何事にも粘り強く考え、主体的に取り組める三中生を育むための授業研究・授業実践を行っていきたいと考えています。

また、学習習慣や学習への意識が高まっている層とそうでない層の二極化に課題がありますので、個に応じた学習活動を含め、学校生活や友達関係の満足感を充実させ、非認知能力と認知能力の両輪で生徒の力を高めていきたいと考えています。そのためには保護者の皆様の力が不可欠です。学校と家庭が連携を図り、子どもたちと向き合い、様々な経験を通して自分に自信を持ち、生活を楽しむことができるように、取り組んでいきたいと思います。今後とも、皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

併せて、規則正しい生活習慣やスマートフォンの使い方については、ご家庭にお願いするところがたくさんあります。是非ご家庭でのご協力をお願いいたします。